

SensoMineR でホリスティック分析入門テキスト

Napping[®]/Projective Mapping

はじめに

テキストをご購入いただきありがとうございます。

このテキストをお読みいただければ簡単に『プロダクトマップ』を作成する方法がわかります。紙とポストイット、そして本テキストとパソコンがあればデータ収集から解析までお使いいただけます。

ところで『プロダクトマップ』とは何でしょうか？

商品開発やマーケティングに関わる人であれば頻繁に使うツールです。『プロダクトマップ』は製品やサービスなどを2次元上に表示して、製品の特長や分布の状況など様々な視点で製品の状況を分析し、商品開発やマーケティング・営業施策の戦略立案などに使われます。

それでは『プロダクトマップ』はどのように作るのでしょうか？

様々な方法がありますが、最も簡単なのは皆さんが製品から感じたとおりに製品の類似性や相違性を元にマップ上に製品を配置する方法です。仮にこれを主観マップと名付けましょう。

もし、新入社員が主観マップを作ってきて、それを使って商品戦略を考えるというのはいかがでしょうか？

ちょっと信用できませんよね。

主観マップには問題がありそうです。

- 1つ目、人によっては、マップの上下左右の意味が違います。
- 2つ目、人によっては、感じ方や強弱の間隔が違うので配置が異なるでしょう。
- 3つ目、マップ作成者が作ったマップを信じてよいのでしょうか

逆に言えば、これらの問題が解決できれば主観マップは簡単にプロダクトマップを作る良い方法となります。

そして、これらの問題を解決して簡単にプロダクトマップを作る方法がホリスティック法なのです。

さあ、ホリスティック法をやり方を順を追って見ていきましょう。

第 1 章ホリスティック法（NAPPING/PROJECTIVE MAPPING）

1-1 ホリスティック法とは

ホリスティック法とは、商品やサービスなどの類似性や相違性に基づいて 2 次元上に配置する方法の総称です。

ホリスティック（Holistic）という言葉は「全体的な」とか「全身の」という意味です。医学用語として、局所的な西洋医学に対する言葉としてホリスティック医学という言葉もあります。

本テキストで扱うホリスティック法は、プロダクトマップを作成するときに一部分にこだわるのではなく、全体として商品を感じて配置するというところからきているでしょう。

ホリスティック法という言葉は日本では一般的ではありません。官能評価では Napping（ナッピング）という手法で認知されています。心理学の方では Projective Mapping という方がなじみがあります。いずれの方法も基本的には同じ方法です。

1-2 ホリスティック法の基本的な考え方

ホリスティック法は「はじめに」で述べたように主観マップの問題を解決するように考えられています。

まず、ホリスティック法の基本的な考え方と実施方法を説明します。

ホリスティック法では、評価する対象物について回答者が試飲・試食を通じて感じた類似性と相違性に基づいて配置します。その際、方向性や場所、時間、味わい方などはすべて回答者に任せます。このようにして得られたデータは

QDA や他のプロファイル法に比べて自由な手法といえます。

そして、配置されたサンプルの座標を計測して回答データとします。

このようにして複数の回答者から得られた回答データ（標本）を解析することで、母集団のプロダクトマップを推定します。

ホリスティック法の特徴

- ・回答者が感じた類似性や相違性に基づいて配置する
- ・回答者は訓練されたパネルやエキスパートと同じように未訓練パネルでもよい（子供も可。Gombert, Fayol, & Ardi, 1990）
- ・早い
- ・用語の定義が不要

・従来型のプロファイル法（QDA など）やラピッドメソッド（フラッシュプロファイリングなど）と良い相関がある

1-3 ホリスティック法が適する用途

ホリスティック法によって得られたプロダクトマップを使うのにどのような用途が適しているのでしょうか？

考え方から見てみましょう。

ホリスティック法は、軸の意味合いや座標が厳密とは言えません。

つまり、全体的な傾向は見て取れるが詳細な違いは判らないといえます。

日本について、地球上の位置を把握するのは世界地図でよいでしょう。

しかし、東京はどこにあるのか？練馬区の西にある町は何かを調べるには詳細な地図が必要です。

県や市区町村、市役所の場所など細かいことはわかりませんが、日本が地球全体のどこら辺に位置するのかを知ることができるのが世界地図です。

そしてホリスティック法は、世界地図のようなものです。

ホリスティック法は、あまり厳密ではなく、全体として商品の類似性や方向性が見られれば良いという用途に適しているといえます。

精度があった方が良いですが、高い精度のマップを得るには高いコストがかかります。

多少の精度を犠牲にしても全体図を得たい場合には有効な方法といえるでしょう。

1-4 ホリスティック法の活況

ホリスティック法は古い歴史を持っており、官能評価分野でもホリスティック法を用いた論文が数多くあります。また、近年はホリスティック法の論文が増加傾向であり、今後も活用されることでしょう。

論文で取り上げられている食品には次のようなものがあります。

チョコレート/乾燥スープ/スナックバー/チーズ
ジュース/ワイン/ホット飲料/粉末ドリンク

固形・液体、ホット・コールドなど多岐にわたっています。

今後も様々な事例が増えていくでしょう。